

その他



- ・ 創立74周年記念日行事を開催
- ・ 本学教育学研究科を修了した赤松諒一さんが日本陸上競技選手権大会で初優勝
- ・ 岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念行事を開催
- ・ 岐阜大学発認定ベンチャーFiberCrazeの長曾我部代表取締役社長がForbes JAPANが選ぶ日本発「世界を変える30歳未満」の1人に選出
- ・ 教育学研究科修了生の赤松選手が世界陸上男子走高跳で8位入賞
- ・ 岐大酒を酒造している「蔵元やまだ」がKURA MASTER 2023年度 プレジデント賞を受賞
- ・ 図書館1階アカデミック・コアの愛称が「Sky ACADEMIC CORE」に決定
- ・ 第1回岐阜大学ホームカミングデイ2023を開催
- ・ 第74回岐阜新聞大賞
- ・ 岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施
- ・ 全学共通教育棟1階多目的ホールの愛称が「IBIDEN Innovation Hub」に決定



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

創立74周年記念日行事を開催

【概要】

本学は令和5年6月1日で創立74周年を迎えたことから、講堂にて学内外の関係者など約150名が出席のもと創立記念日行事を執り行いました。

式典は4年ぶりにコロナ禍以前の内容に戻しての開催となり、管弦楽団の演奏から始まり、感謝状贈呈、名誉教授称号授与、産学連携准教授等称号授与などの各種表彰を行いました。また、吉田学長による学長報告では、本学における研究力の強み、産学官連携の状況及び地域活性化に係る実績等について触れられ、今後も地域の中核大学として大きな役割を果たしていく決意が語られました。

その後、第55回岐阜大学フォーラムとして中京大学教養教育研究院の風間教授をお招きし、「DEIB宣言～岐阜大学の今とこれから～」というテーマのもと、基調講演が行われました。風間教授は講演を通じて、様々な調査結果に基づいた大学の多様性に係る現状と課題について提言されました。それを受けて、本学の工学部リム教授、応用生物科学部山根准教授、地域科学部在学学生加藤さん及び教育学部卒業生松原さんに登壇いただき、「多様性・公正性・包摂性・帰属感を考える」をテーマに自身の経験等を踏まえたリレートーク&フリーディスカッションが行われました。

岐阜大学は、これからも、多様性(Diversity)、公正性(Equity)、包摂性(Inclusion)を積極的に推進して、構成員が帰属感(Belonging)を得られる組織であり続けられるよう、様々な取り組みを展開していきます。



学生表彰の様子



学長報告の様子



風間教授による講演の様子



リレートーク&ディスカッションの様子

本学教育学研究科を修了した赤松諒一さんが 日本陸上競技選手権大会で初優勝

【概要】

6月1日（木）～4日（日）にかけて大阪で行われた「第107回 日本陸上競技選手権大会」において、2020年に本学教育学研究科を修了した赤松諒一さんが男子走高跳に出場し、自己新記録を更新する2m29cmを跳び、同大会で初優勝を果たしました。

6月9日（金）には、赤松さんと専任コーチである陸上競技部顧問の林陵平助教が学長室を訪問し、優勝報告を行いました。赤松さんは「練習の成果が出て自己新記録で初優勝をすることができて自信につながった。来年のパリ五輪出場を目標に夏の国際大会でも新記録を狙いたい」と話しました。吉田学長からは、「自己新記録と初優勝おめでとうございます。パリ五輪出場に向けて引き続きコーチの林先生と共に頑張ってください」と激励しました。



優勝報告の様子



記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/6/5	岐阜	男子走り高跳び 赤松（岐阜大院出）初優勝 「世界で戦える選手に」 ～ 赤松諒一さん（岐阜大卒業生）～
2023/6/12	中日	赤松選手「初優勝自信に」 日本選手権走り高跳び 岐阜大で喜び ～ 医学系研究科研究生 赤松諒一さん，教育学部 林 陵平 助教，吉田和弘 学長 ～
2023/6/14	岐阜	赤松「世界選手権参加標準を狙う」 赤松や河村らがアジア選手権へ 代表発表 ～ 赤松諒一さん（教育学研究科修了）～

岐阜大学農学部・応用生物科学部 創立100周年記念行事を開催

【概要】

令和5年6月3日（土）に「岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念行事」を開催し、記念講演会、記念植樹式、最古の日本製トラクター復活デモンストレーション、創立100周年記念式典及び創立100周年記念祝賀会を実施しました。

記念講演会では、土川健之第14代日本中央競馬会理事長に講演いただきました。記念植樹式では「ヒメユズリハ」の苗木に、吉田学長、光永学部長が「土かけ」を、杉山副学長、柵木同窓会長が「水やり」をおこないました。トラクター復活デモンストレーションは、大変多くの見学者が集まり、熱心な質問も投げかけられるなど大変盛り上がりを見せました。

記念式典では、光永学部長式辞の後、河合副知事、柴橋岐阜市長、松尾東海国立大学機構長、吉田学長からの祝辞があり、これまでの農学部・応用生物科学部の歩みとともに、新たな時代における学部への大きな期待が述べられました。

100周年記念誌編集委員長向井譲フェローから100年の歩みの紹介、100周年を機に作成した1977年から2003年までの岐大祭みこしパレードDVDを杉山副学長が紹介、古き良き時代に思いを馳せた笑いもあり、和やかな式典となりました。

祝賀会では、応用生物科学部と岐阜県食品科学研究所のコラボレーションによるクラフトビール「多望之春 各務」のお披露目があり、参加者に振舞われました。

来賓の方々、同窓生、教員OB、現職教員が親交を深めつつ、100周年を祝うにふさわしい充実円満な1日となりました。



式辞を述べる光永学部長



オンライン開催となった記念講演会
講師：土川日本中央競馬会第14代理事長



記念植樹式の様子



クラシックトラクター復活デモの様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/6/5	岐阜	節目の100周年, 250人祝う 「研究拠点としてけん引」 ～ 応用生物科学部 光永徹 学部長 ～
2023/6/5	岐阜	創立100周年の岐阜大応用生物科学部 独自清酒酵母でビール ～ 「多望之春-各務」 応用生物科学部 中川智行 教授 ～
2023/6/12	朝日	清酒酵母でクラフトビール 岐阜大応用生物科学部が開発 苦み少なく味わいすっきり ～ 「多望之春-各務」 応用生物科学部 中川智行 教授 ～
2023/6/30	中日	清酒酵母で岐阜大「ビール」 学部創立100年 知識生かす ～ 応用生物科学部 中川智行 教授 ～

【テレビ等放送】

放送日等	番組名	内容
2023/7/18	NHK岐阜 「まるっと! ぎふ」 18:30～19:00	岐阜大酵母を使用したクラフトビール、 岐阜大学エール「多望之春-各務」について 応用生物科学部 中川智行研究室所属学生

岐阜大学発認定ベンチャーFiberCrazeの 長曾我部代表取締役社長がForbes JAPANが選ぶ 日本発「世界を変える30歳未満」の1人に選出

【概要】

岐阜大学発認定ベンチャーFiberCraze株式会社の代表取締役社長であり、本学卒業生の長曾我部 竣也さんが2023年8月24日にForbes JAPANの『FORBES JAPAN 30 UNDER 30 2023 日本発「世界を変える30歳未満」120人』に選ばれました。

この賞はForbes JAPANが2018年より開催し、30歳未満の次世代を牽引する若い才能に光を当てるものです。長曾我部さんはSCIENCE & TECHNOLOGY& LOCAL部門での受賞となりました。

同社は工学部 武野教授の発明した特許を活用し、長曾我部さんが岐阜大学在学中に立ち上げたベンチャー企業であり、ナノサイズの"あな"空きフィルム・繊維に、あらゆる機能を付与させた高機能素材の開発を目指しています。また、同社は本学の認定ベンチャー制度に基づき、2021年10月に岐阜大学発認定ベンチャー第7号に認定され、大学としても手厚くサポートを実施しております。

〔長曾我部さん受賞コメント〕

この度、『Forbes JAPAN 30 UNDER 30 2023』にご選出いただけたこと、大変光栄に存じます。2年前、FiberCrazeは20年以上の基礎研究を経て確立された特許技術をコアとして立ち上がりました。岐阜の地域から新たな素材を生み出していく弊社の取り組みに対して、ご評価を頂きとても嬉しく思います。日頃ご支援を頂いているすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

FiberCrazeのミッション「世界が誇る素材を創る」を実現するため、我々の強みである研究開発力とともに、岐阜地域を中心としたものづくりに関する高い技術力を結集させ、新素材の開発にチャレンジし続けます。先日の資金調達を起点に、より一層事業成長を加速させ、チーム一同邁進してまいります。一緒に突き進んで頂ける方、ご興味持って頂いた方、ぜひカジュアルにお話しさせてください！

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/8/11	岐阜	岐阜大発ベンチャー「ファイバークレーズ」 高機能繊維素材、量産挑む 試作機開発4000万円調達 ～ 岐阜大発ベンチャー「ファイバークレーズ」社長 長曾我部竣也さん ～
2023/8/11	中部経済	4社から4000万円調達 多孔化技術で高機能性素材開発 岐阜大発ベンチャーファイバークレーズ ～ 岐阜大発ベンチャー「ファイバークレーズ」社長 長曾我部竣也さん ～
2023/8/13	中日	岐阜大発のベンチャー企業に計4000万円 繊維開発へ4社共同出資 ～ 岐阜大発ベンチャー「ファイバークレーズ」社長 長曾我部竣也さん ～

教育学研究科修了生の赤松選手が 世界陸上男子走高跳で8位入賞

【概要】

本学大学院教育学研究科修了生の赤松諒一選手が、8月19日（土）～27日（日）の日程でハンガリー・ブダペストのナショナル・アスレチックス・センター（国立競技場）で行われた「2023年世界陸上競技選手権大会」の男子走高跳に日本代表選手として出場し、見事8位入賞を果たしました。

予選では、跳び始めの2m14cmから2m28cmまで、すべて1回目の跳躍で成功させる堂々の全体1位タイ記録で予選を突破し、決勝への進出を決めました。

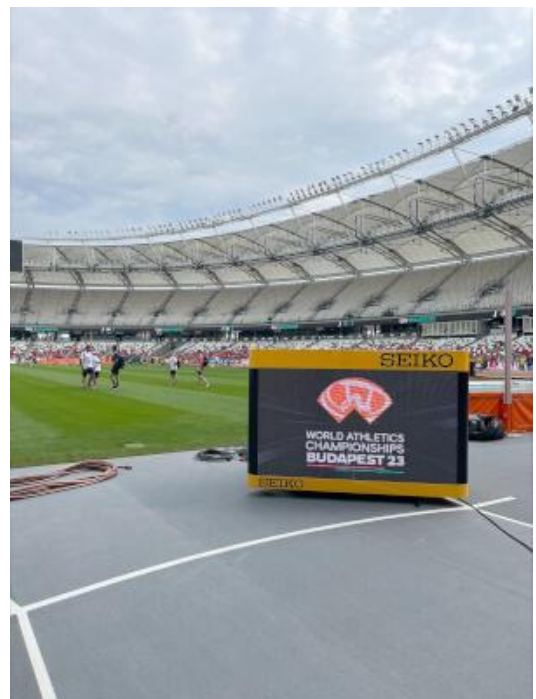
決勝では、2m20cm、2m25cmを1回目の跳躍で成功させ、予選から続けて7回連続での跳躍成功となりました。その後、2m29cmの跳躍に3度挑戦し、惜しくも成功することはできませんでしたが、全体の結果で見事8位入賞を果たしました。

赤松選手は「応援していただいた皆様、ありがとうございました。今回の世界陸上では目標としていた決勝への進出と8位入賞を達成することができました。しかし、予選と同じ跳躍をすることができればもう少し上を狙えるような試合であったため、悔しい思いも残る結果となりました。来年のパリオリンピックでは、メダル獲得を目標にこれから力を付けていきたいと思っております！」と力強く語りました。

赤松選手に帯同していた本学教育学部保健体育講座助教の林専任コーチは「ご声援いただいた皆様、ありがとうございました。今大会までの過程を振り返ると、お互いが成長することで新たなものを創造し、各々が創造したものを1つの形にすることができたと感じています。次はオリンピックでのメダル獲得に向けて再挑戦していきます。岐阜大学からオリンピックへ！皆様ご声援をどうかよろしく願いいたします。」と今後の抱負を語りました。



記念写真
(左から赤松選手、林専任コーチ)



国立競技場内観

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/8/3	中日	走り高跳びの赤松選手 5日に公開練習 大垣市北公園、参加者を募集 ～ 赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2023/8/8	岐阜	赤松（岐阜大院出）世界選手権へ 男子走り高跳び、2大会連続 ～ 赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2023/8/15	岐阜	赤松選手「メダル狙う」世界陸上 男子走り高跳び出場 大垣市長に決意 ～ 赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2023/8/21	岐阜	赤松（岐阜大院出）初の決勝へ 5回の試技、全て一発成功 ～ 赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2023/8/24	岐阜	陸上世界選手権 赤松（岐阜大院出）8位 走り高跳び 昨年予選落ちの雪辱 まだ伸びしろ「五輪で上位を」 ～ 赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2023/8/24	中日	陸上世界選手権 赤松8位入賞 走り高跳び 異色のジャンパー勲章 ～ 赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2023/8/24	毎日	28歳医学部研究生 勲章 男子走り高跳び 8位入賞の赤松 ～ 赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2023/8/24	岐阜	世界陸上閉幕 日本入賞最多 五輪へ弾み ～ 赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～

岐大酒を酒造している「蔵元やまだ」がKURA MASTER 2023年度 プレジデント賞を受賞

【概要】

2023年8月28日に岐阜大学オリジナル酵母を使用した日本酒「岐大酒」の製造を担当している「蔵元やまだ」が酒造した玉柏 純米大吟醸がKURA MASTER 2023年度プレジデント賞を受賞しました。

KURA MASTERは2017年から開催されている、フランスの地で行うフランス人のための日本酒コンクールです。2023年度は1090点の日本酒の出品があり、プレジデント賞は最高賞に当たります。

「蔵元やまだ」は岐阜大学の卒業生が家族で営む酒蔵で、令和元年から岐大酒を造っていただいております。岐阜大学としても今回の受賞は誇らしく思います。

岐大酒は学生が岐阜県内で採取した野生酵母を使用し、応用生物科学部 中川智行教授を中心に開発されたもので岐阜大学生協や誠仁会のオンラインショップなどで購入可能です。開発ストーリーについては【関連リンク】「岐阜県内で採取した野生酵母を使った 岐阜大学オリジナル酵母の開発に成功。個性豊かな「岐阜大酒」作りに貢献。」をご覧ください。

【関連リンク】

https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/g_lec/special/38_1.html



「蔵元やまだ」さんに酒造いただいている
岐大酒

図書館1階アカデミック・コアの愛称が「Sky ACADEMIC CORE」に決定

【概要】

本学は、業務系ビジネスシステムの開発をはじめ、カーエレクトロニクスやデジタル複合機、モバイルなどの製品に組み込まれるソフトウェアの開発・評価/検証業務や、情報セキュリティ対策ソフトウェアなどの自社商品の開発・販売に携わるソフトウェア開発会社であるSky株式会社とのネーミングライツ（命名権）契約に基づき、図書館1階の学習スペース、アカデミック・コアの愛称を「Sky ACADEMIC CORE」に決定しました。

本学では、ネーミングライツ事業により得られる収益を、本学の教育及び研究の発展・向上に役立てることを目的にネーミングライツ制度を平成30年から導入していますが、今回が初の契約となります。この愛称は2023年10月1日から2027年9月30日までの4年間使用されます。

10月13日（金）には記念式典を実施し、Sky株式会社から寺下和典執行役員ほか関係者が、本学からは吉田和弘学長ほか関係者が出席しました。吉田学長は挨拶で「Sky ACADEMIC COREが学生の知識を深め、スキルを磨き、未来への道を切り開く手助けになることに喜びを感じている。Sky株式会社様の人材育成や教育研究環境の向上への思いから支援いただいたことに感謝申し上げます」と述べ、寺下執行役員は「Sky ACADEMIC COREを親しみをもって呼んでいただきたい」と述べられました。

本契約を機に岐阜大学とSkyは、Sky ACADEMIC COREの愛称名が多くくの学生に定着するよう努め、教育研究環境の一層の充実に取り組みます。



テープカットの様子



左から、吉田学長、寺下執行役員

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/10/14	中日	岐阜大の一角に命名権 大阪のシステム開発「Sky」と契約 ～ 吉田和弘 学長、「Sky ACADEMIC CORE」～
2023/10/25	読売	岐阜大の施設 命名権契約 初の公募 システム開発会社と ～ 「Sky ACADEMIC CORE」、全学共通教育事務室～

第1回岐阜大学ホームカミングデイ2023を開催

【概要】

令和5年11月3日（金）に第1回岐阜大学ホームカミングデイ2023を、本学講堂およびYouTubeでの同時配信にて開催しました。このホームカミングデイは、すべての岐阜大学ファンやステークホルダーを対象に、相互の交流・連携を深め、持続可能な相互関係の構築及び相互支援に資する取り組みとして、大学全体として初めて開催したもので、当日は、238名の方に来場いただきました。

午前の部では、岐阜新聞社社主・代表取締役、岐阜放送取締役会長で杉山・栗原環境事務所取締役の杉山 涼子 氏により「地域住民の地平から、SDGsの実現を考える」をテーマで基調講演が行われ、その後、本学のSDGsに関する取組報告がされました。最後に登壇者によるSDGsに関する鼎談が行われ、環境活動の効果的な発信方法などについて杉山 氏から助言を受けました。

午後の部は、最初に吉田学長から大学の動向について報告があり、その後、本学OBで日本農薬株式会社 代表取締役社長の岩田 浩幸 氏により「食の安全と作物保護・農薬の役割」について特別講演が行われました。講演後は、農薬に対する認識が変わったなどの声が聞かれました。続いて、パリ五輪を目指して活躍されているOBの赤松 諒一 氏（アワーズ株式会社）より「これまでの取り組みと2024年パリ五輪に向けて」をテーマに、さらなる高みを見据えた報告がありました。

その後、学生課外活動団体のiGEM Gifu及びユネスコ学生クラブからの活動報告、落語研究会の落語、よさこいサークル騒屋による演舞が行われました。騒屋さんの演舞はとてもパワフルで会場を大いに盛り上げました。

最後に、杉山副学長から岐大祭りこしパレード紹介と閉会の挨拶があり、本会を学生のお祭りである岐大祭とともに大学のお祭りとして盛り上げていきたいと語られ、閉会となりました。来年度も11月に開催予定です。



基調講演をする杉山 涼子 氏



特別講演をする岩田 浩幸 氏

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/11/4	岐阜	SDGsに地域の視点 岐阜大でホームカミングデイ 本社社主らと学生ら鼎談 ～ 第1回ホームカミングデイ2023～

第74回岐阜新聞大賞

【概要】

学識経験者らによる選考委員会（委員長：吉田和弘 岐阜大学長）で慎重に審査した結果、令和5年度「第74回岐阜新聞大賞」が6氏に贈呈され、学術部門では、本学副学長の王 志剛 氏が受賞しました。

贈呈式は令和6年2月10日（土）に岐阜放送本社にて行われました。

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/1/9	岐阜	輝く功績 第74回岐阜新聞大賞受賞者：学術部門 塑性加工、可能性広げる ～ 王志剛 副学長 ～
2024/2/1	岐阜	輝く功績 第74回岐阜新聞大賞受賞者 ～ 産業部門 岐阜造園代表取締役会長 小栗達弘氏（岐阜大農学部 農芸化学科卒業）～
2024/2/11	岐阜	地域に貢献、努力結実 岐阜新聞大賞贈呈式 受賞6氏たたえる 古里発展 光る足跡 ～ [学術部門]王志剛 副学長、選考委員長 吉田和弘 学長 ～

岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施

【概要】

令和6年2月20日（火）に岐阜大学基金学長特別表彰の贈呈式を実施しました。

この制度は、昨年10月に岐阜大学基金を活用して新たに設けた表彰制度で、本学の教職員及び学生を対象に、国際大会での大賞受賞など本学の名誉を著しく高めたと認められる事由について、学長の裁量で表彰するものです。また、副賞として活動支援金を給付することもできます。

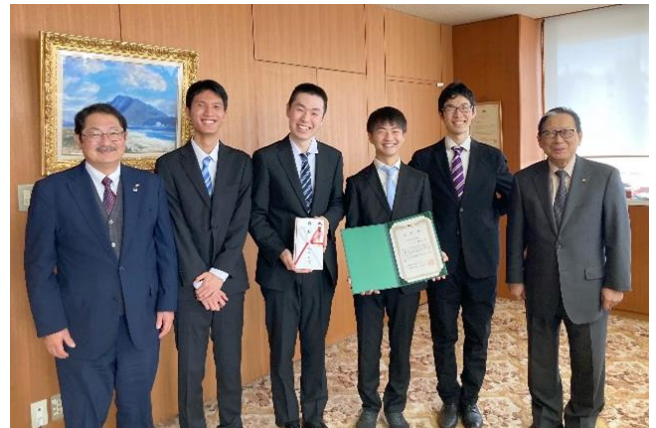
この度、栄えある第1号として、昨年11月18日（土）～19日（日）に開催されたVRの大会「IVRC2023」において、複数の賞を受賞し、2024年4月にフランスで開催されるVR/ARの国際大会「Laval Virtual」へ招待出展が決まり、新聞／テレビで広く報道された工学部学生チームの「チーム鶉匠」に贈呈することにいたしました。

贈呈式では、学長から本制度の設立の経緯などを説明後、「頑張った成果のひとつとして、後輩にも伝えてほしい」と述べられました。学生からは、受賞への謝意とともに「頑張ればいいこと（表彰）もあることを、後輩にも伝えていきます。」と話され、終始、笑顔が絶えない和やかな雰囲気となりました。

本学は、本制度が教職員及び学生のモチベーション・アップに少しでも繋がることを期待しています。



贈呈式の様子



集合写真

全学共通教育棟 1階多目的ホールの愛称が「IBIDEN Innovation Hub」に決定

【概要】

本学はイビデン株式会社とのネーミングライツ（命名権）契約に基づき、全学共通教育棟 1階多目的ホールの愛称を「IBIDEN Innovation Hub」に決定しました。

本学では、ネーミングライツ事業により得られる収益を、本学の教育及び研究の発展・向上に役立てることを目的にネーミングライツ制度を導入しております。この愛称は2024年4月1日から2029年3月31日までの5年間使用されます。

令和6年3月26日（火）には記念式典を実施し、イビデン株式会社から青木武志代表取締役社長、河島浩二取締役経営役員が、本学からは吉田和弘学長、杉山誠副学長が出席しました。吉田学長は挨拶で、「イビデン株式会社には、国立研究開発法人科学技術振興機構 女子中高生の理系進路プログラム ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクトにおいて、女子中高生対象に工学関係の仕事を見学、交流する機会をいただくなど、これまで様々な支援をいただいた。また、この施設は岐阜大学生ならば、講義、就職関連などで必ず利用する親しみのある場所であり、そこに学生が世界へと羽ばたくHubとなるような名前をつけていただいたことに感謝申し上げます。」と述べ、青木代表取締役社長は、「イビデン株式会社は、設立111年目の会社で、170名を超える岐阜大学卒業生が在職しております。多くの方がこの「IBIDEN Innovation Hub」を最大限に活用して、イノベーションを繰り返していただきたい。」と述べられました。

今後は命名権料を活用して、学生の学修環境の整備に取り組んで参ります。



テープカットの様子
(左から) 杉山副学長、吉田学長、青木代表取締役社長、
川島取締役経営役員



(左から) 吉田学長、青木代表取締役社長

東海国立大学機構



- ・東海国立大学機構直轄事業として新たに2つの拠点を認定
- ・研究シーズ検索システムをリリース
- ・岐阜大学・名古屋大学における飛行ロボット（自律滑空機）授業の連携した取り組みが日本機械学会教育賞を受賞
- ・糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟の開所記念式典を挙げる
- ・東海国立大学機構債（東海機構コモンズ債）の発行条件を決定
- ・「低温プラズマ総合科学研究拠点」が始動
- ・東海国立大学機構の最先端講義、配信スタート 6月24日キャンパス内で自動運転実演授業を実施
- ・脱炭素社会の実現へ“産産学学官官”連携 カarbonニュートラル共創シンポジウム開催
- ・永岡桂子文部科学大臣が「糖鎖生命コア研究所 岐阜研究棟」を視察！
- ・国立大学法人東海国立大学機構環境報告書2023を公表
- ・東海国立大学機構初の出資子会社Tokai Innovation Institute設立
- ・東海国立大学機構 統合報告書「INTEGRATED REPORT2023」を発行
- ・財務レポート2023を発行
- ・第1回 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（C-FRONT）学長懇談会を開催
- ・川崎重工業株式会社から東海国立大学機構にアーム型ロボット50台を寄贈
- ・東海国立大学機構は日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社と人獣共通医療（Sharing Medicine）分野に関する包括連携協定を締結
- ・東海国立大学機構は岐大、名大の新たな連携拠点として「量子フロンティア産業創出拠点」を認定



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

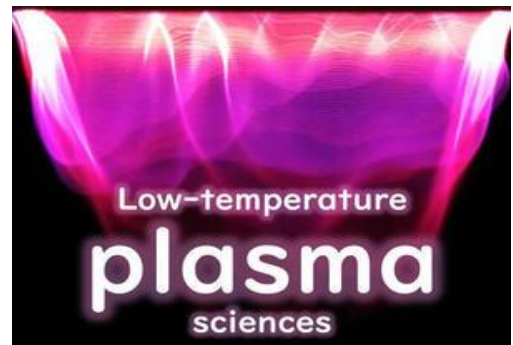
東海国立大学機構直轄事業として新たに2つの拠点を認定

【概要】

東海国立大学機構では、令和5年4月1日から、新たに2つの拠点を機構直轄事業として認定しました。機構直轄事業とは、岐阜大学及び名古屋大学がそれぞれ持つ強み、リソース等を融合し、そのシナジー効果が期待できる先進的かつ挑戦的な取組であり、東海国立大学機構として機構自らが推進すべき事業として認定するものです。認定した事業の活動には、予算措置や直接的な助言等の優遇措置を行います。成果が創出された直轄事業については随時情報提供していく予定です。これら2拠点の今後の研究活動に、どうぞご期待ください。

<低温プラズマ総合科学研究拠点>

名古屋大学・低温プラズマ科学研究センターと岐阜大学・工学部附属プラズマ応用研究センターを統合する低温プラズマ総合科学研究拠点を構築し、両大学が連携をはかりつつ、低温プラズマを中心に据える多様な学問領域の境界を越える学融合領域によって、低温プラズマの新価値創成を進める拠点を形成します。



低温プラズマ科学に関する多様な共同利用・共同研究を国内外の研究者と両大学の強みを相乗的に活かして推進することで、先進プラズマ計測に基づくシミュレーション技術を駆使した基礎学理の探求、半導体デバイスプロセス、機械材料・トライボロジーなどのモノづくりをはじめとし、化学・エネルギーやエアロスペース、医療や農業、様々な分野に革新をもたらすイノベーションがもたらされ、持続可能な開発目標（SDGs）やSociety5.0の実現に発展的に結びつく革新がもたらされることが期待されます。

<One Medicine創薬シーズ開発・育成研究教育拠点>

One Medicine創薬シーズ開発・育成研究教育拠点（COMIT; Center for One Medicine Innovative Translational Research）は、「ヒトと動物の疾病は共通」すなわち「One Medicine」という視座にたち、医学、獣医学、薬学、工学等の研究者が分野横断的かつ国内外で施設横断的に連携し、有望な創薬シーズを高度に選別し、臨床応用へつなげる（創薬研究における「魔の川」を克服する）ことでヒトと動物の創薬研究を変革します。



さらに、創薬標的の同定から創薬シーズの開発・育成、非臨床試験、治験までの研究プロセスを一気通貫で管理・推進し、医薬品・医療機器開発企業との共同研究や知財導出を支援できるマネジメント人材を育成して、国内の大学・研究機関に配置することで、オールジャパン体制でヒトと動物の創薬研究を一気に加速させ、「Sharing Medicine（人獣共通医療学）」という新たな学際領域を開拓します。

研究シーズ検索システムをリリース

【概要】

東海国立大学機構は、令和5年4月6日（木）に岐阜大学・名古屋大学の研究シーズを同時に検索できるシーズ検索システムSeedsSearch+AIをリリースしました。

AIを搭載し、検索キーワードを元に関連キーワードを抽出し、幅広い検索を行うことができます。産学連携をはじめ様々な用途のシーズ・トピック検索としてご利用ください。

AI 搭載のシーズ検索システム

SeedsSearch^{+AI}



東海国立大学機構 / 学術研究・産学官連携統括本部

岐阜大学・名古屋大学における飛行ロボット（自律滑空機） 授業の連携した取り組みが日本機械学会教育賞を受賞

【概要】

岐阜大学・名古屋大学での飛行ロボット（自律滑空機）に関するユニークな取り組みである、飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦！「東海クライマックスシリーズ」が、日本機械学会教育賞を受賞し、令和5年4月20日（木）に表彰式が行われました。

機械航空工学を総合的に理解するためのプログラムとして、岐阜大学と名古屋大学はそれぞれ飛行ロボット（自律滑空機）の設計・製作・評価を行う授業を立ち上げており、岐阜大学では、工学部4年生の選択科目「航空宇宙生産技術（機械工学概論Ⅱ）」として、名古屋大学では、工学部機械・航空宇宙工学科3年生の必修科目「設計製図第3」の3種類用意された選択テーマの内の1つとして開講しています。さらに、この2大学のプログラムの連携を目指して、2021年度から合同競技会「東海クライマックスシリーズ」を岐阜市内のアリーナで開催しています。

競技会では、両大学のプログラム内容の違いによる参加学生の気づきも多く、ユニークな教育効果が現れています。さらに、この競技会の様子はオンラインで一般公開されるとともに、参加学生のアンケートに基づいた学術論文も発表しており、関係者のみならず広くその意義が伝えられていることなどが評価されての受賞となりました。



賞状を手にする原教授（左）と加藤日本機械学会長



東海クライマックスシリーズの様子

糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟の開所記念式典を挙行

【概要】

令和5年5月15日（月）、糖鎖研究の新たな研究拠点である「糖鎖生命コア研究所 岐阜研究棟」の開所記念式典を、岐阜大学構内において挙行了しました。

東海国立大学機構は、文部科学省「大規模学術フロンティア促進事業」として「ヒューマングライコムプロジェクト（英語名：Human Glycome Atlas Project：HGA）」（代表：門松健治 東海国立大学機構・理事）を推進しており、この研究棟は本プロジェクトの研究中核拠点として整備されたものです。

式典には、文部科学省から森晃憲研究振興局長、瀬戸信太郎大臣官房文教施設企画・防災部計画課長、岐阜県から河合孝憲副知事、フランス国立科学研究センターからJacques Maleval東京事務所長らが出席しました。

森研究振興局長は、「『ヒューマングライコムプロジェクト』を推進する中、新しく建設されたこの岐阜研究棟が、世界最高水準の優れた糖鎖研究の拠点となり、我が国が世界の糖鎖研究を先導していくことを期待しております」と祝辞を述べました。

また、松尾機構長からは「糖鎖は生命活動に欠かせない重要な分子群ですが、本格的な研究は進んでいないのが現状であり、糖鎖研究を一層加速させようと決意を新たにしました」と述べ、吉田学長、杉山総長の挨拶の後、門松所長からは「糖鎖科学は日本が牽引してきた分野であり、このプロジェクトは日本が先鞭を切り、世界をリードしていきます」と語りました。

式典後は内覧会が参加者に対し行われ、続いて「ヒューマングライコムプロジェクト特別シンポジウム2023」がハイブリッド開催され、国内外より約300名の研究者・学生が参加しました。生命科学の未来のための学術のフロンティアを切り開く先端的なプロジェクトの門出となる貴重な機会となりました。



式典の様子



祝辞を述べられる森文部科学省研究振興局長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/5/16	岐阜	糖鎖研究拠点 開設 岐阜大 認知症など解明へ
2023/5/16	中日	岐阜大に「糖鎖」拠点施設 東海国立大機構など研究 声明科学の発展期待
2023/5/16	毎日	「糖鎖」研究の専用拠点 東海国大機構 岐阜大内に 新設
2023/5/16	日刊 工業	糖鎖の研究拠点 岐阜大で開所式 東海国立大学機構
2023/5/17	中日	健康や老化関係「糖鎖」の構造解析 東海国立大学機 構 岐阜大に研究拠点
2023/5/17	日本 経済	糖鎖の新研究棟 岐阜大が開所式 病気予防など探る

東海国立大学機構債（東海機構コモンズ債）の発行条件を決定

【概要】

- 東海国立大学機構債（東海機構コモンズ債）の発行条件を決定しました。
- 【債券名称】 第1回国立大学法人東海国立大学機構債券 愛称:東海機構コモンズ債
 - 【ESG債区分】 サステナビリティボンド(評価機関:株式会社格付投資情報センター)
 - 【発行額】 100億円
 - 【年限】 20年
 - 【利率/発行価格】 利率:1.187%/発行価格:100円
 - 【条件決定日】 令和5年(2023年)5月26日
 - 【払込日】 令和5年(2023年)6月2日
 - 【償還日】 令和25年(2043年)6月2日
 - 【利払日】 毎年6月2日及び12月2日 (初回利払日:令和5年(2023年)12月2日)
 - 【担保】 一般担保付
 - 【債券格付】 AA+(株式会社格付投資情報センター)、AAA(株式会社日本格付研究所)
 - 【主幹事証券会社】 野村證券株式会社(事務)、大和証券株式会社、みずほ証券株式会社
 - 【受託会社】 株式会社三菱UFJ銀行

詳細は「東海機構コモンズ債」に関する情報(投資家向け情報)(東海国立大学機構Webページ(<https://www.thers.ac.jp/disclosure/investment/index.html>))をご覧ください。

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/5/27	岐阜	大学債で100億円調達へ 東海国立大学機構 研究環境 充実図る
2023/5/27	中日	・「大学自ら資金調達の時代」 国の交付金減, 競争は激化 東海国立大機構 債権発行 ・東海国立大機構 債権100億円発行 中部初 名大施設など整備
2023/5/27	毎日	100億円調達へ大学債 6月 東海国立大学機構
2023/5/27	日本経済	サステナ債 100億円発行 東海国立大学機構 研究設備導入など
2023/5/28	朝日	名大・岐阜大運営の東海国立大機構 研究施設の整備資金 債権で100億円調達へ
2023/5/28	読売	東海機構が大学債100億円 名大・岐大の施設整備費に
2023/5/29	日刊工業	初の機構債 100億円発行 東海国立大機構 研究施設を整備

「低温プラズマ総合科学研究拠点」が始動

【概要】

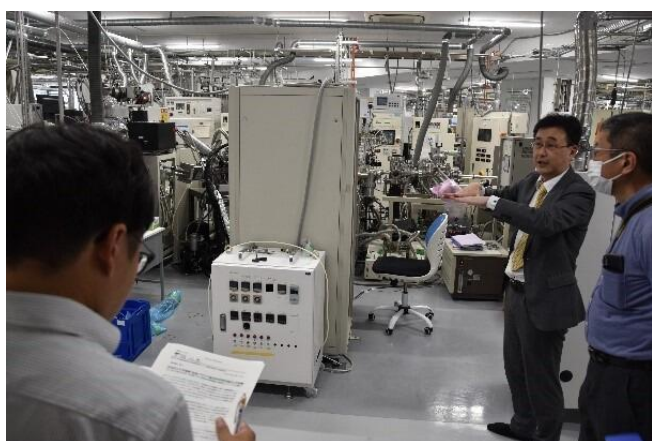
東海国立大学機構は、半導体の製造など多様な分野での活用が進む「低温プラズマ」の新たな研究拠点を創設しました。

岐阜大学における地域連携による研究の強みと、名古屋大学が半世紀にわたり積み重ねてきた世界トップクラスの研究の強みを結集し、幅広い分野の研究領域を融合した「総合科学研究拠点」として、2023年4月から研究活動をスタートさせました。

研究分野は半導体をはじめ、医療、農業、化学、エネルギー、電気、宇宙、情報、土木、環境、材料...と、多種多様な領域の基礎研究から社会実装を目指す活動までカバーします。

また、両大学だけでなく国内外の大学や研究機関、企業にも広く門戸を開き、「低温プラズマに関することなら何でも解決できる」拠点として運営を目指します。

6月20日（火）、報道機関向けに拠点の紹介とプラズマ科学の魅力を伝える説明会と、拠点の創設を記念した式典とパネルディスカッションを開催しました。



報道関係者向け施設公開



名古屋大学坂田・平田ホールでの設立記念式典

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/6/21	中日	東海国立大学機構 低温プラズマの研究拠点が発足 名大、岐大のセンター統合 バイオや半導体など
2023/6/21	日刊工業	東海国立大学機構 名大・岐阜大で研究拠点 低温プラズマ 基礎・応用機能一本化
2023/7/14	朝日	低温プラズマ研究拠点発足 東海国立大学機構 ～ 低温プラズマ総合科学研究拠点 ～

東海国立大学機構の最先端講義、配信スタート 6月24日キャンパス内で自動運転実演授業を実施

【概要】

東海国立大学機構は6月19日（月）から、高校生や社会人向けに大学の正課外教育コンテンツの一部をインターネットで配信する取り組みを開始しました。

配信を担当するのは、動画配信事業を手掛ける株式会社ドワンゴおよび株式会社KADOKAWA（代表取締役社長：夏野 剛）です。当機構と両社は2022年6月、デジタル技術を活用して共同で次世代人材の育成を目指す包括的提携を結んでおり、その“第一弾”の取り組みです。

また、コンテンツ配信にあわせ、特別講義イベントとして、6月24日に自動運転の実演授業を実施しました。研究用車両が名大キャンパス内を自動走行するとともに、名大が実施する卓越大学院プログラム「ライフスタイル革命のための超学際移動イノベーション人材養成学位プログラム（TMI）」の担当教授が最新技術を紹介し、当日の講義には両社が運営支援する“ネットの高校”「N高等学校」「S高等学校」の生徒が参加しました。なお、より多くの方に取組を知っていただくため、講義の様子はドワンゴが運営する学習サイト「N予備校」で配信するほか、ライブ配信サービス「ニコニコ生放送」、YouTubeでも放送されています。



自動運転の実演授業の様子

脱炭素社会の実現へ"産学官"連携 ～ カーボンニュートラル共創シンポジウム開催 ～

【概要】

東海国立大学機構は7月7日（金）、中部経済連合会と連携して第1回カーボンニュートラル共創シンポジウムを名古屋市内で開きました。

名古屋大学と岐阜大学の研究者と企業関係者が、気候変動やエネルギー問題、食の安全といった視点から「循環型社会」への転換に向けた課題や方策などを発表。企業や大学関係者ら80人が来場した他、オンラインで160人が参加し、脱炭素（カーボンニュートラル）社会の実現に向けたビジョンを共有しました。

当機構は、地球温暖化を進行させる要因となる二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガスの発生を抑える脱炭素化の取り組みを加速させようと、カーボンニュートラル推進室を設置。岐阜大学と名古屋大学内にも脱炭素に関連するセンターを置き、CO₂排出削減をはじめ、自治体の脱炭素推進や産学連携による社会実装、人材育成などに取り組んでいます。

今回のシンポジウムは産学官連携の一環として、中部地方を代表する企業・学校法人・経済団体などで構成される中部経済連合会と共催しました。当機構の松尾清一機構長は「産学官の多様な立場の人たちがつながる場を創り、新たな共創の好事例をどんどん創り出してもらいたい」と参加者に呼び掛け、同連合会の水野明久会長は「官民挙げた取り組みとしてまずは人の交流を促したい。"産学官"でカーボンニュートラルを目指す」と意欲を述べました。



シンポジウムの様子



(左から) 東海国立大学機構 松尾清一 機構長、
経済産業省中部経済産業局 寺村英信 局長、
中部経済連合会 水野明久 会長



東海国立大学機構の産学官共同研究の状況

永岡桂子文部科学大臣が 「糖鎖生命コア研究所 岐阜研究棟」を視察！

【概要】

令和5年7月19日（水）、永岡桂子文部科学大臣が生命科学領域において初の文部科学省「大規模学術フロンティア促進事業」として採択された「ヒューマングライコムプロジェクト（英語名：Human Glycome Atlas Project：HGA）」（代表：門松健治 東海国立大学機構・理事）を推進する国立大学法人東海国立大学機構糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟を視察されました。

松尾清一東海国立大学機構長、吉田和弘岐阜大学長らとの意見交換に始まり、門松健治糖鎖生命コア研究所長、安藤弘宗同副所長から糖鎖研究の概要説明がなされた後、意見交換が行われました。永岡大臣からは、「文部科学省として本プロジェクトを応援していきます」と激励の言葉をいただきました。

引き続き研究棟内の最先端設備の視察が行われました。永岡大臣は、研究者からの詳細な説明に熱心に耳を傾けられ、糖鎖研究の最前線を肌で感じられたようでした。その後、永岡大臣と糖鎖研究に携わる学生との交流会が行われました。学生からは、博士課程進学の原因や将来の希望、研究活動する上で困っていることや要望、糖鎖研究の面白さなどが語られ、垣根のない自由闊達な意見交換が行われ、参加した学生にとっては、生命科学の未来を担う若手研究者として大変貴重な機会となりました。

なお、本視察には文部科学省から、大越貴陽大臣秘書官、石川仙太郎大臣秘書官、国分政秀大臣秘書官、櫻木瑤子大臣報道官、黒沼一郎大学研究基盤整備課長が同行されました。

研究棟前において記念撮影。
永岡大臣を中心に、
前列左から門松所長、
石川秘書官、松尾機構長、
吉田岐阜大学長、
国分秘書官、高橋局長
後列左から木塚教授、
安藤副所長、黒沼課長、
佐藤教授、平林特任教授



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/7/20	岐阜	文科相、糖鎖研究所視察 岐阜大で大学院生を激励 ～ 糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟 ～
2023/7/20	中日	農業高校実態把握へ 永岡文科相が視察 北方・岐阜 農林 ～ 糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟 ～

国立大学法人東海国立大学機構環境報告書2023を公表

【概要】

令和5年9月26日（火）、東海国立大学機構環境報告書2023を発行いたしました。

今年度の環境報告書では、新体制となったカーボンニュートラル推進室の室長、副室長への学生インタビュー、省エネアクト for ゼロカーボンキャンパスの取組などの記事を織り込んで、カーボンニュートラル達成に向けた姿勢やその具体的な取り組み内容について紹介しています。また、多数の学生に編集に参加してもらい、学生による研究室インタビューのほか、環境報告書を通じた京都女子大学、京都工業繊維大学の学生との相互交流も実施しました。



※ 環境報告書2023下記のURLよりダウンロードできます。

<https://www.thers.ac.jp/about/publications/environmental/index.html>

東海国立大学機構初の出資子会社Tokai Innovation Institute設立

【概要】

岐阜大学と名古屋大学を運営する国立大学法人東海国立大学機構（以下「機構」という。）は、このたび文部科学大臣の認可を受け、初めての出資子会社「株式会社Tokai Innovation Institute」（以下「TII」という。）を令和5年10月2日（月）付けで設立いたします。

複雑で激しく変化し、不確実で、かつあいまいな時代を切り拓く革新的アイデアは、異種との交わりによる化学反応から生まれます。TIIは、企業とアカデミアが境界を超えてつながり、危機感と使命感の中から未来への課題を見つけ、研究成果を社会実装するまで、ワンストップで企業とアカデミアをサポートします。企業の事業・研究戦略とアカデミアの研究、この両者に精通したプロジェクト推進のプロフェッショナルが、機構内外のネットワークを活用し、イノベーションを加速させます。

TIIでは、岐阜大学と名古屋大学が持つ知的成果を俊敏かつ効果的・効率的に産業界へ還元するため、以下の事業内容を行い、機構が取り組む大学・産業界・地域発展の好循環モデル「T-PRACTISS※」の実現に貢献します。

※ T (THERS)-PRACTISS(=Plan to Renovate Area Chubu into Tech Innovation Smart Society)は、機構が目指す、東海地域における地域創生への貢献と国際競争力強化の同時達成モデルです。

記者会見場にて
左から3人目、社長に就任する小池吉繁氏



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/9/26	中日	産学共同研究 素早く実用化 東海国立大学機構が子会社 モビリティ・新素材など4領域 ～ Tokai Innovation Institute(TII) ～
2023/9/26	日本経済	研究成果事業化 新会社を設立 東海国立大学機構 ～ Tokai Innovation Institute(TII) ～
2023/9/26	日刊工業	東海国立大学機構 初の出資会社設立 モビリティーなど事業化 ～Tokai Innovation Institute(TII)～
2023/9/26	中部経済	初の子会社設立 東海国立大学機構、産学連携を強化 ～ Tokai Innovation Institute(TII) ～

東海国立大学機構 統合報告書 「INTEGRATED REPORT2023」を発行

【概要】

令和5年10月31日（火）、岐阜大学と名古屋大学を運営する国立大学法人東海国立大学機構（以下「東海機構」という。）は、2021年度、2022年度に続き、3冊目となる統合報告書「INTEGRATED REPORT2023」を発行しました。

本報告書は、東海機構を取り巻く経営上のリスクや機会、グローバル社会や地域社会が直面する社会課題を経営上の重要課題と捉え、その解決に向けた取り組みを経営戦略と体系的に結びつけることにより、東海機構、岐阜大学、名古屋大学の現在の価値と将来に向けた価値創造をストーリーとして開示するものです。

また、「大学」の枠を超えて、一般の投資家の方とのコミュニケーションを深めるために、「国際統合報告フレームワーク（IIRC）」を遵守して作成をしております。

本報告書が、東海機構、岐阜大学、名古屋大学が目指す価値創造について、あらゆるステークホルダーの皆様にご理解いただくための一助となれば幸いです。



※ 統合報告書「INTEGRATED REPORT2023」は、下記のURLよりダウンロードできます。
<https://www.thers.ac.jp/about/publications/tougou/tougouhoukokusyo.html>

財務レポート2023を発行

【概要】

東海国立大学機構では、岐阜大学と名古屋大学の財務状態や経営状況を分かりやすく解説し、両大学の運営・活動を財務の観点から広くご理解いただくことを目的として、「財務レポート」を作成しています。

令和5年12月4日（月）、文部科学大臣により承認を受けた2022（令和4）事業年度財務諸表をもとに「財務レポート2023」を発行しましたのでお知らせします。



※ 財務レポート2022は下記のURLよりダウンロードできます。
<https://www.thers.ac.jp/disclosure/finance/index.html>

第1回 東海地域・国立大学連携プラットフォーム (C-FRONT) 学長懇談会を開催

【概要】

東海国立大学機構、岐阜大学、及び名古屋大学を含む東海地域の7国立大学法人8大学が一体となって、それぞれのリソースを有効活用することで、東海地域全体の持続的な発展に貢献しつつ大学群としての国際競争力を高め、様々な課題や社会からの要請に柔軟に対応できる連携の枠組みとして、令和6年1月9日（火）に東海地域・国立大学連携プラットフォーム（C-FRONT）を立ち上げ、名古屋市内の会議室において、第1回の学長懇談会を開催しました。

当日は、学長ら9名全員が参加し、C-FRONTの設立趣旨の確認、期待することや連携したい事項、及び各大学の特色・強みについて意見交換を行いました。

今後は、テーマごとに参加を希望する大学でタスクフォースを作り活動していくとともに、年に数回は学長懇談会を開催し、情報共有を図るとともに産業界、自治体、教育界とも協力しながら、教育、研究をはじめ地域創生や産学官連携、留学生の獲得や国際交流など幅広い分野で連携を図っていくことを合意しました。

なお、次回の学長懇談会は、令和6年春以降の開催を予定しています。

〔参加大学等〕

- ・静岡大学、・浜松医科大学、・東海国立大学機構、・岐阜大学、・名古屋大学
- ・愛知教育大学、・名古屋工業大学、・豊橋技術科学大学、・三重大学



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/12/26	中日	東海の国立大連携 来月に新組織発足、初会合 教育、研究で相乗効果 資金獲得狙う
2023/12/26	中日	名称は「C-FRONT」 来月発足 東海の国立大連携 組織
2023/12/26	岐阜	東海8国立大が新組織 来月設立 連携で競争力高める
2023/12/26	日本経済	東海の国立8大学連携 名大など教育・研究分野で
2024/1/10	中日	東海4県国立大 連携確認 C-FRONT発足 トップ初会合 ～ 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（Cフロント）～
2024/1/10	岐阜	東海8国立大で発足 国際競争力強化図る連携組織 共同研究や人材交流 視野 ～ 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（Cフロント）～
2024/1/10	朝日	8国立大 研究などで連携へ 東海地域 プラットフォームを設立 ～ 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（Cフロント）～
2024/1/10	毎日	教育、研究で連携 東海4県 国立8大学 強み共有 ～ 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（Cフロント）～
2024/1/10	読売	東海4県国立大 生き残りへ連携 枠組み発足 ～ 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（Cフロント）～
2024/1/10	日本経済	東海の8国立大 枠組み発足 連携し競争力向上狙う 留学生招へい・教員養成も ～ 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（Cフロント）～
2024/1/11	朝日	東海の国立大 連携組織設立 研究や教育タッグ ～ 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（Cフロント）～
2024/1/11	日刊工業	東海の8国立大、連携へプラットフォーム 強み生かし地域発展に貢献 ～ 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（Cフロント）～

川崎重工業株式会社から東海国立大学機構に アーム型ロボット50台を寄贈

【概要】

東海国立大学機構は川崎重工業株式会社から新型コロナウイルスのPCR検査に使用していたアーム型ロボットを寄贈いただきました。2024年度にも追加で寄贈いただき、合わせて約50台寄贈いただく予定です。

令和6年1月23日（火）には、感謝の意を示す場として「ロボット寄贈式典」を開催しました。式典内では、東海国立大学機構 松尾機構長は「このロボットを活用して、次世代を担う人材の育成と、持続可能な社会の実現に貢献していきたい」と強調され、本学吉田学長は「川崎重工業株式会社様との連携をより深いものにしていきたい」、川崎重工業株式会社航空宇宙システムカンパニー 下川プレジデントは「航空宇宙産業以外の広い分野でも協力していきたい」と述べました。

岐阜大学ではすでに寄贈いただいたロボットにドリルを装着し、高額な工作機械に代わって航空機部材に正確に穴を開ける加工技術を開発することでコスト削減を目指す研究等に活用しております。

その他、学生教育、地域貢献に役立てるように活用してまいります。



東海国立大学機構 松尾機構長 お礼挨拶の様子



本学 吉田学長 お礼挨拶の様子



川崎重工（株）航空宇宙システムカンパニー
下川プレジデント 企業挨拶の様子



左から杉山総長、KHI亀山氏、KHI下川氏、
松尾機構長、吉田学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/1/24	岐阜	PCRロボ、学びの右腕に 川崎重工、東海国立大学機構へ寄贈 “次の役目”航空研究など活用 ～ 工学部 永井学志 准教授、工学部機械工学科4年 高橋篤史さん～
2024/1/24	日本経済	PCR検査ロボを寄贈 川重、東海国立大学機構に ～ 航空宇宙生産技術開発センター～
2024/1/24	日刊工業	東海国立大学機構、産ロボ寄贈式 川重から双腕型など ～ 航空宇宙生産技術開発センター～
2024/1/25	中日	川崎重工 東海国立大学機構に寄贈 ロボット50台 研究に活用を ～ 工学部機械工学科4年 高橋篤史さん～
2024/1/26	朝日	アーム型ロボット 大学で「第二の人生」 川崎重工、岐阜大へ寄贈 PCR検査で活躍 「技術者育成に使って」 ～ 工学部 永井学志 准教授、工学部機械工学科4年 高橋篤史さん～

東海国立大学機構は日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 と人獣共通医療学（Sharing Medicine）分野に関する包括連携 協定を締結

【概要】

東海国立大学機構は、令和6年2月15日（木）に日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社との包括的な産学連携に関する協定を締結しました。

本機構と日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社は、これまでも受託研究や共同研究等を通じて連携を進めてきました。本協定は、本機構と日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社が、包括的な連携のもと、双方の高度な研究成果、最先端情報、国内外のネットワークを相互に活用して、ヒトと伴侶動物（コンパニオンアニマル）の Well-being の実現（One Medicine（ヒトと動物の疾病は共通という捉え方）による創薬・先端医療研究の革新及び Sharing Medicine の実現）を目的としています。

協定締結式では、ヤンシュテファン・シエルド日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社代表取締役会長兼社長が「One Medicine創薬シーズ開発・育成研究教育拠点（COMIT）が持つ素晴らしい理念は、ベーリンガーインゲルハイムの理念と通じるものです。患者さんのために新たな領域へ果敢にチャレンジするアカデミアの可能性を応援したいと思います」と述べました。

松尾機構長からは「今回の包括連携協定に基づき、さらに両者の関係を強化し、将来的にはCOMITでの創薬研究に加えて、Real World Dataを用いたアンメット・ニーズの探索など、東海国立大学機構全体としての連携関係を広く発展させていきたい」と挨拶がありました。

今後、本機構と日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社は、本協定に基づき、One Medicine による創薬・先端医療研究の革新及びSharing Medicine の実現を加速させていきます。



協定書を持つヤンシュテファン・シエルド日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社代表取締役会長兼社長（左）と松尾機構長



集合写真

～東海国立大学機構～

東海国立大学機構は日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社と人獣共通医療学（Sharing Medicine）分野に関する包括連携協定を締結

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/2/16	日本経済	ヒト・動物の創薬研究 東海国立大学機構 独製薬と提携 ～ 東海国立大学機構 松尾清一 機構長 ～
2024/2/17	中日	人・動物 共通新薬開発で連携 東海国立大学機構と製薬会社が協定 岐阜大の拠点 研究加速へ ～ 東海国立大学機構 松尾清一 機構長 ～
2024/1/24	岐阜	東海国立大学機構とドイツ製薬大手 「人獣共通」創薬で連携 ベーリンガーインゲルハイム「可能性を応援」 ～ 東海国立大学機構 松尾清一 機構長 ～

東海国立大学機構は岐大、名大の新たな連携拠点として「量子フロンティア産業創出拠点」を認定

【概要】

東海国立大学機構は、岐阜大学と名古屋大学の連携を強化する連携拠点支援事業における支援対象として、「量子フロンティア産業創出拠点」（略称Q-BReD）を新たに認定しました。本拠点は4月に新設される「名古屋大学 未来社会創造機構 量子化学イノベーション研究所」と「岐阜大学 医学部附属量子医学イノベーションリサーチセンター」を連携・拠点化するものです。

令和6年2月21日（水）には、記者会見を開き、松尾清一機構長と、拠点長に就任予定の名古屋大学大学院工学研究科・清中茂樹教授、副拠点長に就任予定の岐阜大学大学院医学系研究科・松尾政之教授が、事業の概要、新拠点の概要、研究内容を説明しました。



説明する松尾教授



集合写真（左から吉田岐阜大学長、松尾岐阜大教授、松尾機構長、清中名大教授、杉山名大総長）

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/2/22	中日	量子研究拠点発足へ 東海国立大学機構 3部門に岐大と名大の研究者ら 「化学の視点」診断や創薬に応用 ～「量子フロンティア産業創出拠点（Q-BReD）」、副拠点長 医学系研究科 松尾政之 教授（放射線医学）～
2024/2/22	岐阜	量子研究拠点4月開設 東海国立大学機構 新産業を創出 ～「量子フロンティア産業創出拠点（Q-BReD）」、副拠点長 医学系研究科 松尾政之 教授（放射線医学）～
2024/2/22	毎日	「第二次量子革命」に乗り遅れるな 東海国立大学機構 連携拠点発足へ ～量子フロンティア産業創出拠点（Q-BReD）～
2024/2/22	日本経済	25年度に量子研究施設 東海国立大学機構 ～量子フロンティア産業創出拠点（Q-BReD）～
2024/2/22	日本工業	量子技術で連携拠点 東海国立大学機構 20件の産業創出 ～量子フロンティア産業創出拠点（Q-BReD）～